

紀行 夏の訪れを告げる

黒山三滝滝開き

埼玉県

町田 尚夫

しかし越生地方には、当時の伝跡が各地に残っている。

滝開きの神事は、越生山本坊ゆかりの熊野神社から始まる。所定時間が迫ると、行事を司る黒山三滝保勝会の皆さんや見物客が大勢集まってくる。開

黒山三滝とは、入間川の支流越辺川の上流三滝川にかかる男滝（落差約10メートル）、女滝（同約5メートル）の二段の滝と、傘杉峠に発する枝沢にかかり、少し下手で合流する天狗滝（同約15メートル）の三つの滝の総称で、都会から近い身近な観光地として、四季を通じて多くの観光客に親しまれている。

例年7月第1日曜日に催される滝開きは、昭和25（1950）年に黒山三滝が日本観光百選・瀑布の部に入選、翌26（1951）年に県立黒山自然公園に指定されたのを契機に始められた修験道の名残を留める古式豊かな行事である。

越生地方の修験道は、室町前期の応永2（1395）年、相馬掃部介山本坊栄田が箱根山から黒山に移り、同5（1398）年に熊野神社を祭つて紀州熊野本宮に見たて、背後の大平山を大峰山になぞらえて採灯護摩の修行場に、黒山三滝を修験道場にするなど、辺り一帯を霊場として整備し、関東における修験道の拠点としたのが創始とされる。慶長8（1603）年、東隣りの毛呂山町の西戸に本拠を移した後も越生山本坊と称して繁栄したが、明治元（1868）年の神仏分離令により神仏習合の形態は禁じられ、更に明治5（1872）年には修験道が廃止された。



滝開き神事一行

黒山三滝付近略図



始前の待ち時間に、巫女装束（白の小袖と緋袴）を着けた滝乙女と、大天狗山伏を囲んで見物客から盛んにシャッターが切られる。

保勝会の役員や、越生町町長・教育

長らの挨拶の後、いよいよ出発である。先頭は大団扇で天狗をおおきながら進む案内役。羽団扇柄の衣装をまとい、高下駄を履き金剛杖をついた大天狗。白装束に脚絆を着け白足袋を履いた山伏3人。唐櫃を担ぐ2人、神籬(神座)を抱え持つ人、神職2人、僧侶、6人の滝乙女の順に行列を組み、三滝に向かってスタートする。例年この時季はお天気が気になるが、今日は高曇りで雨の心配はなさそうだ。

山伏が吹き鳴らす勇壮な法螺貝の音が響き渡り、行列は整齊と進む。後にぞろぞろと見物客が従う。法螺貝の音を聞きつけて、沿道の家々の人が外に出て見送る。中には喜捨する人もいる。1ヶ先の三滝まで、見物客を伴いながら行列が練り歩く。初夏の候で蒸し暑いのが通例だが、三滝川沿いの道は涼風が通り抜けて心地よい。梅雨の季節とあって、男滝・女滝は水量が多く見映えが良い。滝前の小平地に祭壇を設け、御神酒、御供物が供えられる。熊野神社から抱えてきた神

籬を真ん中に奉安する。一同が勢揃いすると滝開きの行事が始まる。

神仏習合の名残を留め、神職と僧侶が同席する形式だが、修祓に始まり降神・献饞・献水・祝詞奏上に至るまで神事が中心で、越生町西和田の春日神社宮司が執り行う。次に越生七福神の寺、弘法山見正寺の住職が不動明王真言献上を唱えた後、滝清めに移る。滝乙女と神職が女滝の滝壺に下りる。滝乙女が御神酒を滝壺に注ぐ。神職がお祓いして清めの紙片をまく。滝の周りの狭いエリアに、良い見物場所を選ぼうとする人たちが右往左往して混雑する。夫婦橋を渡って対岸の高みから見ようとしたが、前の人や立ち木に遮られて思うにまかせない。

滝清めの次は、祭壇の前に戻り玉串奉奠に移る。地元官公署、金融、交通機関、観光関係等の代表者が代わる代わる神職から玉串を受けて奉納、拝礼する。そして撤饞・昇神の儀が済むと神職が一礼して神事は終わる。

次いで滝開きのクライマックスとも



滝開き

言える山伏の滝入りが始まる。この頃になると至るところに見物客が溢れ、滝開きの雰囲気は最高潮に達する。男滝への狭い崖道には大勢の人がひしめき合い、危なくて近寄れない。対岸から見ようととしても、滝の手前に立ち並ぶ人垣に隠されてしまう。カメラを構

えた人が、間を開けてくれと大声で叫ぶが、滝の轟音に掻き消されて向こうには届かない。

男滝・女滝前の行事が済むと、最後は天狗滝の滝清めである。滝乙女が天狗滝に行き、御神酒を滝壺に注いで清める。これで全ての行事が終わる。滝開きの関係者は行事の後仕舞をし、見物客は三々五々帰途につく。

後で滝入りの写真を見ると、3人の山伏が滝壺の奥に並んで滝水を浴びながら手を合わせて印を結び、修行をしている様子が写っている。この滝入りを見ようとするには、早くに来て特別席を確保しないと無理だ。しかし、それでは他の行事は満足に見られない。見るだけならともかく、気に入った写真を撮影することはなおさら難しい。

黒山三滝は奥武蔵の一隅にあり、花立松峠を越えて関八州見晴台、高山不動尊へ、あるいは傘杉峠や顔振峠などへのコースが発達し、西武線側から東武東上線側へ、もしくはその逆へと多くのハイカーが訪れている。

また例年10月に行われる武蔵越生ウオーキング大会で、4000人規模の参加者の一部が歩くコースも含まれるゾーンである。越生黒山地方は、現代と古来の伝統を伝える行事が併存する魅力に富んだ地域と言えよう。

(10年7月4日(日)ほか歩く)

●コースタイム

越生駅(バス22分) 神社前―20分―黒山三滝―15分―黒山(バス22分) 越生駅 [計35分]

●費用

池袋⇨越生 東武 700円

越生駅⇨神社前 バス 340円

黒山⇨越生駅 バス 340円

●問い合わせ先

川越観光自動車 049-356-2001

越生町観光協会(役場経済課)

049-292-3121 (内145)

●地図

越生 正丸峠(2万5千)

東京(20万)